

豊中市（大阪府）

【自治体のあらまし】

豊中市は、大阪府の北部に位置する中核都市である。明治22年に豊島郡の5か村が合併し豊中村が置かれた際に、豊島郡の中央に当たることから、豊中の地名がつけられ、明治末から昭和初期に郊外住宅地として人気を博した。大阪市の北に隣接し、市内に大阪国際空港を擁することから、広域へのアクセスも良好である。そのため市北部に位置する千里ニュータウンなどをはじめとして、今もなお住宅都市として発展している。

高校サッカーや高校ラグビー発祥の地であり、大正4年に甲子園の前身となる全国中等学校優勝野球大会の第1回大会が開催されるなど、スポーツとの結びつきも深い。

平成28年10月には、市制施行80周年を迎える。

人口402,867人（平成28年3月1日現在）

【文化芸術創造都市への代表的な取組】

豊中市では、平成18年に文化芸術振興条例を制定し、その後、文化芸術振興基本方針（平成20年）、同推進プラン（平成24年）を策定し、「音楽あふれるまち とよなか」に取り組んできた。とりわけ、毎年秋に開催している「とよなか音楽月間」では、「豊中こども音楽フェスティバル」や「豊中まちなかクラシック」など市内各所で上演されるイベントで賑わい、多くの来場者が市内外から集う。

このような公演をはじめとする多岐にわたる音楽催事は、市内に立地する大阪大学、大阪音楽大学・同短期大学部や、日本センチュリー交響楽団との協定に基づく連携協力の効果を物語るものであり、これら3者と豊中市による官民連携事業だけでも年間22件にのぼる（平成26年度）。

また、市民活動団体と多様な主体で構成される「しょうないREK（レック）」との協働で開催するワークショップや音楽祭は、市民の主体的な音楽創造の場となっている。

上記のような事業を展開する中、平成28年10月には豊中市立文化芸術センターのプレオープンが予定されており、その指定管理者は日本センチュリー交響楽団を含む共同事業体である。オーケストラが大型公立文化施設の指定管理者として携わる事例は国内では稀であり、注目を集めている。

●日本センチュリー交響楽団の活動

平成元年に活動を開始した日本センチュリー交響楽団は、平成23年度から公益財団法人として新たなスタートを切った。平成24年度には豊中市と「音楽あふれるまちの推進に関する協定」を締結。「豊中まちなかクラシック」で歴史的建造物などに質の高い演奏の場を広げ、豊中市ほか地域コミュニティや大学との企画に音楽の創造性を存分に生かしている。平成26年の創立25周年を機に首席指揮者に就任した飯森範親氏とともに一層多彩な活動を展開し、他府県へのコンサートも多数。



日本センチュリー交響楽団 ©s.yamamoto

●しょうないREKとの協働

しょうないREKは、庄内図書館を事務局として、市民、NPO、市の関係機関・部局等で連携して事業を実施している。図書館のリサイクル本の販売収益を公益活動に還元。多文化共生を目指す事業など、幅広い企画力で市内・南部の庄内地域の活性化に貢献している。また、豊中市や、日本センチュリー交響楽団、大阪音楽大学などとともに、作曲家・野村誠氏を迎えて開催する「世界の庄内音楽ワークショップ」、
「世界のしょうない音楽祭」での協働が特筆される。



世界のしょうない音楽祭

●豊中市立文化芸術センターの開設

市民とともに文化芸術を新たに創造・発信し、心豊かな生活や活力ある地域社会の実現に寄与することを目指す拠点施設。平成28年10月プレオープン予定。1,344席と202席のホールのほか、展示室や会議室、練習室等を備える。指定管理者制度を採用し、日本センチュリー交響楽団等の民間事業者の特色や実績を生かした管理運営を行う。様々な舞台芸術の鑑賞事業や、イベントを企画・運営できる人材育成のための多様な講座、ワークショップの開催などが予定されている。



文化芸術センター大ホール（イメージ）